
通電火災の危険性

Danger of energization fire

斎藤 仁志 - 2018年5月5日



地震と火災

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生しました。兵庫県南部地震による大規模地震災害のことです。この地震では、神戸市内で157件の建物火災が発生しましたが、原因が特定できた55件のうち35件が電気火災と最も多く、そのうち33件が通電火災でした。

通電火災とは？



通電火災とは、大規模な地震などに伴う停電が復旧し、通電が再開される際に発生する火災のことをいいます。阪神・淡路大震災のとき、被災地では、多くの地域で停電となりました。地震から1～2日経って、電気が復旧しはじめると、電気ストーブが原因と思われる火災が発生しました。これは、電気ストーブのスイッチが押されたままの状態になっていたため、電気が復旧することで、地震によって電気ストーブの周辺に散乱した紙などに燃えうつって火災になったと考えられています。

通電火災の対策

通電火災を防ぐ方法は、「ブレーカーを落とすこと」です。避難などで家を空けるときは、ブレーカーを落としてから、避難しましょう。

参考文献

- ・わたしの防災サバイバル手帳、消防庁
- ・通電火災ってご存知？、神戸市ウェブサイト
- ・阪神・淡路大震災「1.17の記録」、神戸市
- ・photo AC、無料写真素材 写真AC